

校長室だより～和光高校今昔 第9号 H26.7.4

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 進

バドミントン部の歴史

和光高校バドミントン部の現顧問の殖栗健貴先生は上尾高校出身である。インターハイ全国3位のチームでキャプテンを務めていた。全国3位になって無念だというのが当時の上尾高校であったが、その前後の代で7度の日本一に輝いており、オリンピック選手も輩出している全国屈指の名門校ならではの話だ。上尾の歴史を築いた殖栗先生とベテラン後藤雅見先生の指導で今後の大いなる飛躍が期待される和光バドミントン部であるが、その歴史を辿ってみたい。

そもそも同好会として発足したのが昭和52年のことで、他の部活と較べると遅れて発足した。開校以来5年が過ぎていた。翌年に部に昇格したものの後発のためか体育館使用はままならず、予算もわずかであったため、シャトルを確保するのにも苦労した。設立時の立役者が鎌田恭仁先生（草加東高校校長でご退職）、実は今でも川越西高校再任用教諭としてバドミントンの指導に携わっていらっしゃる。

昭和50年代は、和光高校の歴史の中でも特に部活動が強かったところで、他のクラブが活躍する中、新進のバドミントン部が

大会で勝ち抜いていくことはなかなか難しかった。そのような時に救世主として、若手教諭、上智大学を卒業したばかりの西見正（現川越女子高勤務）が昭和55年に赴任する。礼儀正しく責任感あふれる西見先生は、周囲の信頼をあっという間に得て、鎌田先生と共にバドミントン部の躍進を支えることとなる。

今でも応接室に飾られているバドミントン部の賞状、昭和57年度西部地区新人戦1位（男子）は、この時期の賜物である。

その後、顧問は奥田勝洋先生（現大宮西高校勤務、南部地区委員長）、柿沼清先生（岩槻商業校長でご退職）、後藤雅見先生（現任校勤務）らに引き継がれ今に至っているが、昨年度は女子が県大会で活躍するなど着実に実力を付けてきている。西部地区の雄としての復活も間近い。

